

■■■第3次札幌市子どもの読書活動推進計画■■■

さっぽろっこ読書プラン

～未来を拓くさっぽろの子どもたち～

(案)



平成 27 年 (2015 年) ○月
札幌市

目 次

第1章 計画の策定にあたって 1

- 1 計画策定の背景・趣旨 1
- 2 計画の位置づけ 1
- 3 計画期間 2
- 4 計画の対象範囲 2

第2章 子どもの読書活動の現状と課題 3

- 1 社会情勢 3
- 2 国及び北海道の動向 5
- 3 第2次計画の成果と今後の課題 7
- 4 第2次計画の指標の結果について 12

第3章 計画の基本的な考え方 13

- 1 基本目標 13
- 2 基本方針 13
- 3 計画の指標 14
- 4 計画の体系 15

第4章 子どもの読書活動推進のための方策 16

第1節

基本方針1 子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会の充実 16

- 1 乳幼児期における読書活動の推進 16
- 2 小学生期における読書活動の推進 18
- 3 中学・高校生期における読書活動の推進 20

第2節

基本方針2 子どもの読書活動に関する普及・啓発 22

- 普及・啓発の推進 22

第3節

基本方針3 子どもの読書環境の充実 25

- 1 家庭・地域の読書環境の整備 25
- 2 図書館の読書環境の整備 26
- 3 学校等の読書環境の整備 28
- 4 関係機関・団体の連携・協力の推進 30
- 社会全体での取組イメージ 32

第5章 計画の効果的な推進 32

- 1 計画の推進 32

2	計画の評価及び検証	32
---	-----------	----

資料編 33

資料1	読書についてのアンケート調査	34
資料2	取組項目一覧	46
資料3	策定経過	48
資料4	札幌市子どもの読書を考える市民会議	49
資料5	読書を考える子ども市民会議	50
1	小・中・高校生との意見交換会	50
2	読書を考える子ども市民会議	50
資料6	関係法令等	51

<用語について>

読書：本を読むこと。情報通信端末で電子書籍を読むことも含む

読書活動：読み聞かせ、おはなし会などの各種行事を含め、子どもが読書に親しみ読書習慣を身に付けるためのさまざまな活動全般を含めたもの

図書館：中央図書館、地区図書館などの市立の図書施設

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の背景・趣旨

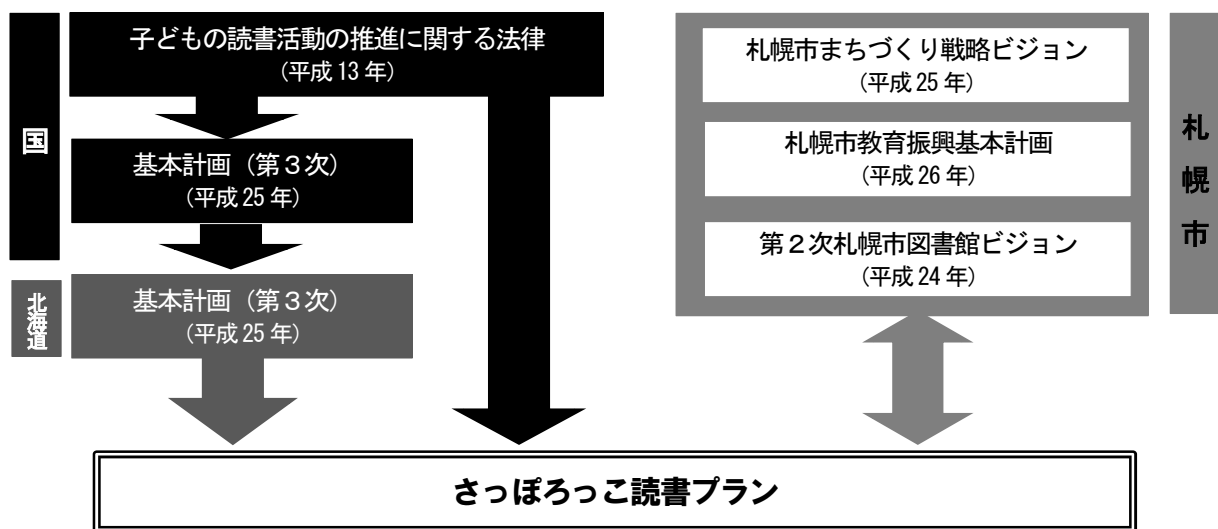
札幌市では、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に進めるため、平成17年6月に「第1次札幌市子どもの読書活動推進計画」（以下、「第1次計画」という。）を策定しました。第1次計画終了後の平成22年9月には「第2次札幌市子どもの読書活動推進計画」（以下、「第2次計画」という。）を策定し、社会全体でさまざまな取組を進めてきました。

これと並行し、子どもの読書活動に関連する計画として、平成24年1月には、以後10年間の図書館の運営やサービスの基本的な考え方と方向性を示す「第2次札幌市図書館ビジョン¹」を策定し、図書館は市民の生活や創造的な活動を支える「知の拠点」としての役割を担うものとして位置付けられました。また、平成26年2月には、新しい「札幌市教育振興基本計画²」を策定し、幼児期から生涯を通じ一貫した理念の下で教育振興策を進めることになりました。

この度、平成26年度で第2次計画の計画期間が終了したことから、これまでの成果を検証するとともに、家庭・地域、図書館、学校等の社会全体で子どもの自主的な読書活動を支える環境を整えるため、新たに策定された関連する計画や社会状況の変化を踏まえ、「さっぽろっこ読書プラン」を策定するものです。

2 計画の位置づけ

この計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律³（平成13年12月12日、法律第154号）第9条第2項に規定される、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画として策定します。



¹ 【第2次札幌市図書館ビジョン】図書館の運営やサービスの基本的な考え方と方向性を示した個別部門計画。計画期間は平成23年度からおおむね10年間。

² 【札幌市教育振興基本計画】教育基本法第17条第2項に規定される地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画。10年間の「札幌市教育ビジョン」と前期5年間の「札幌市教育アクションプラン」からなる。

³ 【子どもの読書活動の推進に関する法律】子どもの健やかな成長に資するため、子どもの読書活動の推進に関する基本理念、並びに国及び地方公共団体の責務等を示した法律。

また、札幌市の最上位の総合計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン⁴」や札幌市の中期実施計画のほか、「札幌市教育振興基本計画」「第2次札幌市図書館ビジョン」などの関連する各分野の部門別計画との整合性を保ちながら、子どもの読書活動に関する施策を実施していきます。

3 計画期間

計画期間は、平成27年度から5年間とし、社会状況の変化など、必要に応じて計画の見直しを行います。

4 計画の対象範囲

計画の対象は、おおむね18歳以下の子どもとしますが、家庭・地域、図書館、学校等の子どもの読書活動と関わりのある市民や団体も対象とします。

⁴ 【札幌市まちづくり戦略ビジョン】札幌市の最上位の総合計画で、札幌市のまちづくりを進めていくための新たな基本的な指針。計画期間は平成25年度～平成34年度の10年間。目指すべきまちの姿を描いた〈ビジョン編〉と、主に行政が優先的・集中的に実施することを記載した〈戦略編〉からなる。

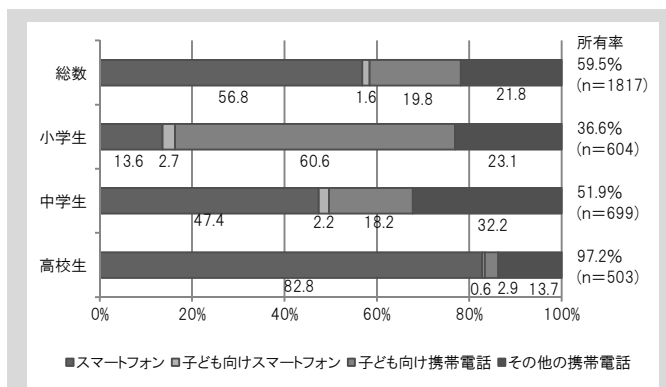
第2章 子どもの読書活動の現状と課題

1 社会情勢

(1) 情報通信技術の発展

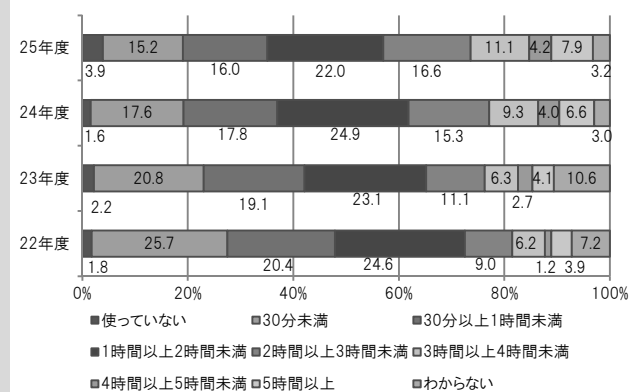
近年、情報通信機器の急速な発達に伴い、その普及状況や利用動向が急激に変化しています。総務省が実施した「平成 25 年通信利用動向調査⁵」によると、主な情報通信機器の世帯保有状況ではスマートフォンとタブレット型端末の保有率が着実な伸びを示し、これらを使ってインターネットを利用する人が急増しています。このような変化は、子どもの間でも起こっており、内閣府が平成 25 年に実施した「青少年のインターネット利用環境実態調査⁶」によると、携帯電話及びスマートフォンを所有する子どものうちスマートフォンの所有割合が増加し、小学生では 13.6%、中学生では 47.4%、高校生では 82.8%となっています。この状況は、子どもの生活環境にも変化をもたらしています。子どもの携帯電話・スマートフォンを通じたインターネット利用が常態化し、インターネットを利用している子どものうち 39.8%が平日 1 日平均 2 時間以上利用しており、全体の平均利用時間は約 107 分となっています。中学・高校生ではメールのほか、SNS⁷サイト等やチャット等でのコミュニケーション、調べもの、ゲーム、音楽や動画等の閲覧での利用が多く、学校段階が進むにつれて長時間利用する傾向が見られます。

このような情報通信機器の発達による子どもたちの生活環境の変化に併せ、電子書籍⁸の普及やインターネットによる調べものの増加



図表 1: 青少年の携帯電話・スマートフォンの所有率及び所有機種 (平成 25 年度)

「青少年のインターネット利用環境実態調査」より



図表 2: 青少年の携帯電話・スマートフォンを通じたインターネット利用時間 (経年比較)

「青少年のインターネット利用環境実態調査」より

⁵ 【通信利用動向調査】総務省が毎年行っている世帯及び企業における情報通信サービスの利用状況等についての調査。

⁶ 【青少年のインターネット利用環境実態調査】内閣府が通称「青少年インターネット環境整備法」(平成 21 年 4 月 1 日施行)の施行状況調査のため、満 10 歳～17 歳の青少年及びその同居の保護者に対し毎年実施しているインターネットの利用に関する調査。

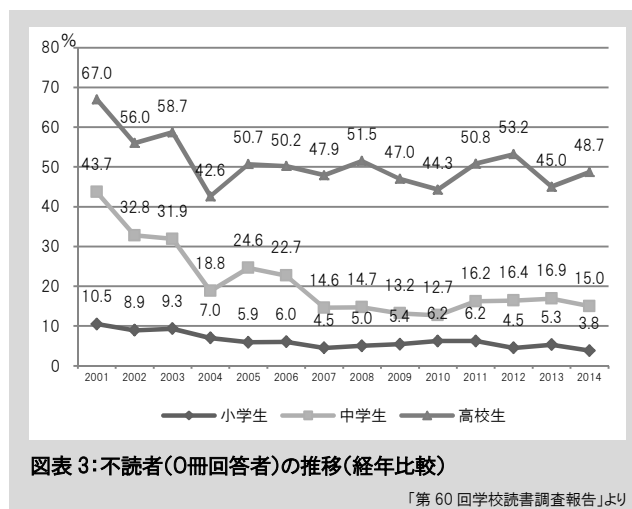
⁷ 【SNS】social networking service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)。インターネット上で知人ネットワークを構築できるサービスのこと。プロフィールや日記の掲載、コミュニティーの形成などが可能で、知人同士の情報交換などに利用できる。

⁸ 【電子書籍】本をデジタルデータ化してインターネットなどで配信され、パソコンやスマートフォンなどの情報端末を利用して読むことができるもの。

など、読書活動の方法も変化しています。文化庁が実施した平成 25 年度「国語に関する世論調査」⁹によると、電子書籍（雑誌や漫画も含む）の利用は全体では 17.3%となっていますが、16 歳から 30 歳代では 3 割を超え、40 歳代以上と比べて高くなっており、若い世代に利用が広がっていると思われます。今後も、情報通信技術の発展がもたらす社会状況や読書環境の変化により、子どもと読書との関係も変化していくものと考えられます。

(2) 子どもの読書状況

「第 60 回学校読書調査報告¹⁰」によると、平成 26 年 5 月の 1 か月間に本を 1 冊も読まなかった子どもの割合（不読率）は、小学生 3.8%、中学生 15.0%、高校生 48.7%となっており、子どもの読書活動の推進に関する法律が施行された平成 13 年の割合（小学生 10.5%、中学生 43.7%、高校生 67.0%）と比べると減少しています。札幌市の子どもについても、平成 26 年 7 月に実施した



図表 3: 不読者(0冊回答者)の推移(経年比較)

「第 60 回学校読書調査報告」より

「読書についてのアンケート調査」によると、不読率が小学生 6.3%、中学生 5.1%、高校生 15.4%となっており、学校における一斉読書の取組の影響などで、第 1 次計画策定時の平成 16 年の割合（小学生 11.3%、中学生 28.0%、高校生 37.4%）より減少しています。また、平成 26 年 4 月の「全国学力・学習状況調査¹¹」によると、札幌市において「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問に「10 分以上」と回答した子どもの割合は、小学校 6 年生で 66.0%、中学校 3 年生で 57.3%となっており、平成 19 年の小学校 6 年生 62.5%、中学校 3 年生 48.2%¹²より増加しています。これらの結果からもわかるように、近年、子どもの読書量に改善が見られるようになっていきます。

一方、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」という質問に「月 1 回以上」と回答した子どもの割合は、小学校 6 年生 39.4%、中学校 3 年生 15.1%となっており、平成 21 年の小学校 6 年生 41.4%、中学校 3 年生 15.7%¹³より改善は見られず、全国平均（公立）の小学校 6 年生 42.9%、中学校 3 年生 18.9%を下回っています。

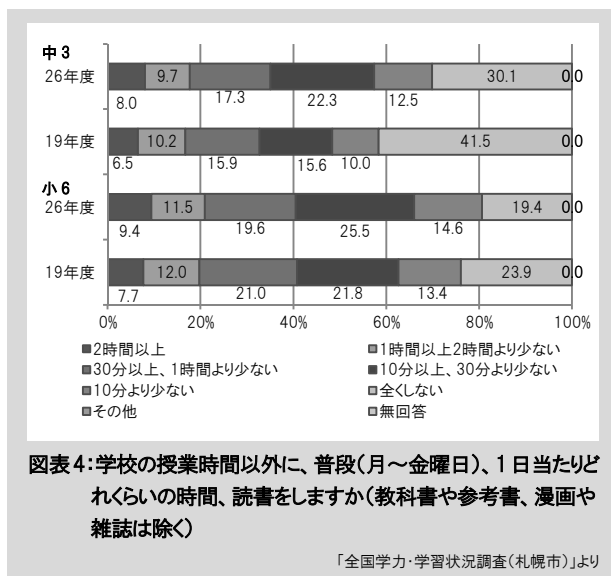
⁹ 【国語に関する世論調査】文化庁が平成 7 年度から毎年実施している日本人の国語に関する意識や理解の現状に関する調査。

¹⁰ 【学校読書調査報告】全国学校図書館協議会と毎日新聞社が共同で毎年実施している児童生徒の読書実態や読書環境に関する全国調査。

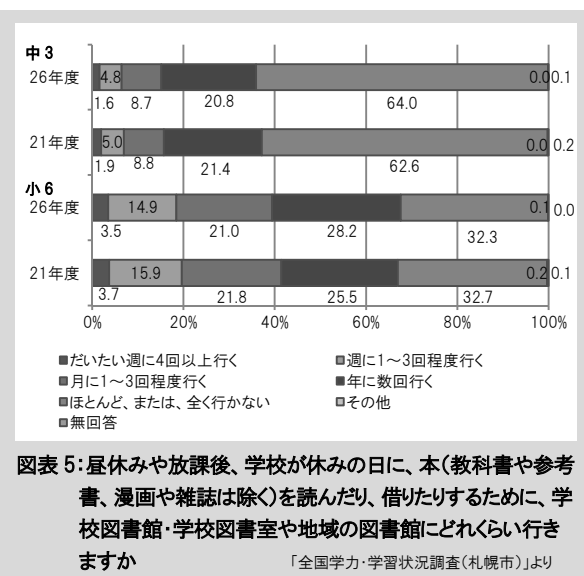
¹¹ 【全国学力・学習状況調査】文部科学省が平成 19 年度から年 1 回全国的に子どもたちの学力状況を把握するために行っている調査。対象は国・公・私立学校の小学校第 6 学年と中学校第 3 学年の児童生徒。教科に関する調査と生活習慣や学習環境等に関する質問用紙調査がある。

¹² 平成 25 年度までは「家や図書館で、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問事項だった。

¹³ 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問事項は平成 21 年度に追加された。



図表 4: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



図表 5: 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

(3) 読書の意義

平成 25 年 2 月に国立青少年教育振興機構によって「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書¹⁴」が発表されました。この報告書において、読書は学力だけでなく、「未来志向」「社会性」「自己肯定」「意欲・関心」「文化的作法・教養」など人間的な成長にも影響していることが指摘されました。読書は個人的な営みではありますが、子どもの心身の成長に大切な役割を果たすことが調査によって裏付けられたことは、読書活動を推進することの意義について改めて考えるきっかけとなっています。

また、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増している現代社会においては、自ら課題を見出し、自ら学び、考え、主体的に判断して行動し、問題を解決する力が重要になっています。このような能力を身に付けていくうえで、読書は大きな役割を果たすものと考えられます。これを踏まえ、読書は文学作品を読むだけでなく、社会科学や自然科学など、さまざまなジャンルの本を読んで幅広い知識や教養を深めるとともに、課題解決のために本や新聞などの情報を収集・活用し物事を探究するなど、自ら学び、自ら考え、自ら行動する力を養うものといった広い観点から捉えられるようになっていきます。

2 国及び北海道の動向

第 2 次計画の策定からの 5 年間の計画期間中には、子どもの読書活動に関連する法制上の整備がなされるなど、国や北海道において、さまざまな動きがありました。

(1) 国の動向

ア 「国民読書年」の取組

平成 20 年 6 月の国会決議により、平成 22 年を「国民読書年」とすることが定められ、「政官民が協力し、国をあげてあらゆる努力を重ねること」が宣言され、全国的に国民読書年にちなんだ行事や取組が行われました。この取組の一環として、平成 22 年 7 月

¹⁴ 【子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書】国立青少年教育振興機構が成人の読書活動の実態や現在の意識・能力及び子ども(特に中学・高校生)の読書活動の実態や現在の意識・能力を把握するために実施した調査。

に文部科学省に「国民の読書推進に関する協力者会議」が設置され、平成 23 年 9 月に報告書「人の、地域の、日本の未来を育てる読書環境の実現のために」が取りまとめられ、人材育成や読書環境整備などが提言されました。

イ 国の計画の策定

国は平成 25 年 5 月に第 3 次となる「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。この計画では、全国の図書館の児童への年間の貸出冊数が過去最高となったこと、学校一斉読書活動を行う学校の割合が増加したこと、「OECD 生徒の学習到達度調査¹⁵」(2009 年)によると、日本の子どもの読解力が国際的に見て上位となっていることなどを成果としています。一方、学校段階が進むにつれて読書離れが進む傾向があること、地域により取組の差が顕著なこと、学校図書館資料の整備が不十分であることを課題として整理し、これらの課題を解決するために、基本方針として、家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組を推進し、子どもたちの読書活動の環境を整備するとともに、読書活動の意義の普及を図ることを掲げています。

ウ 学校図書館法の一部改正

平成 26 年に学校図書館法(昭和 28 年、法律第 185 号)の一部が改正され、専ら学校図書館の職務に従事する職員を学校司書¹⁶として位置付け、これを学校に置くことを努力義務としました。また、学校司書の資質の向上を図るため、研修の実施とその他の必要な措置を講ずるよう努めることとされています。

エ 新学習指導要領の全面实施

「生きる力」を育むという理念のもとに、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視する新しい学習指導要領が全面实施されました。ここでは、各教科などを通じて言語活動の充実を図ることとし、言語に関する能力の育成に必要な読書活動を充実することを定めています。

オ 図書館の設置及び運営上の望ましい基準¹⁷の改正

平成 24 年に、図書館法(昭和 25 年、法律第 118 号)の改正や新たな課題への対応の必要性を受けて、図書館の設置及び運営上の望ましい基準が改正されました。この改正によって、図書館は地域の情報拠点等として重要な役割を担うことが明記されたほか、図書館と学校や民間団体等との連携・協力や、児童・青少年、乳幼児とその保護者等の利用者に対応したサービスの充実、施設・設備の整備などに努めることとされました。

(2) 北海道の動向

北海道は平成 25 年 3 月に、第 3 次の「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定しています。この計画では、「北海道のすべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にその環境整備を図る」ことを基本理念として、社会全体で子どもの読書活動を推進することとしています。この計画では、

¹⁵ 【OECD 生徒の学習到達度調査】OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development: 経済協力開発機構) が行っている国際的な学力到達度調査 (PISA: Programme for International Student Assessment) のこと。15 歳児を対象に読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの 3 分野について、3 年ごとに実施している。

¹⁶ 【学校司書】学校図書館の本の収集・整理、貸出・返却などを行う職員のこと。

¹⁷ 【図書館の設置及び運営上の望ましい基準】図書館法第 7 条の 2 に規定されている文部科学大臣が図書館の健全な発達を図るために定める基準。平成 24 年文部科学省告示 172 号。

ブックスタート¹⁸またはこれに準じた事業を行っている市町村が年々増加していること、一斉読書を実施している学校が増加していること、公立図書館で幼児・児童1人当たりの年間児童書貸出冊数が増加していることを成果としています。一方、公立図書館と連携した活動を行っている学校の割合や学校図書館図書標準¹⁹を達成している学校の割合が全国より少ないことを課題としています。これを受けて、この計画では、子どもの発達段階を踏まえながら、読書活動を継続することにより、読書習慣を定着させることが望まれ、家庭、地域、学校などが連携し社会全体で読書活動を推進する必要があるとしています。

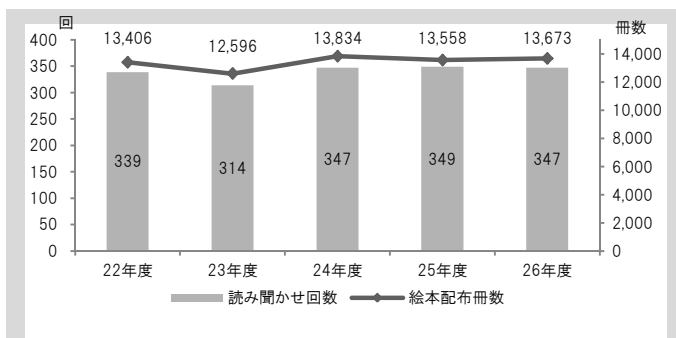
3 第2次計画の成果と今後の課題

札幌市では第2次計画に基づき、重点事業として「子ども読書チャレンジプロジェクト²⁰」を掲げ、家庭・地域、図書館、学校等が連携しながら社会全体で読書活動を進めてきました。

(1) 家庭・地域における取組の成果と課題

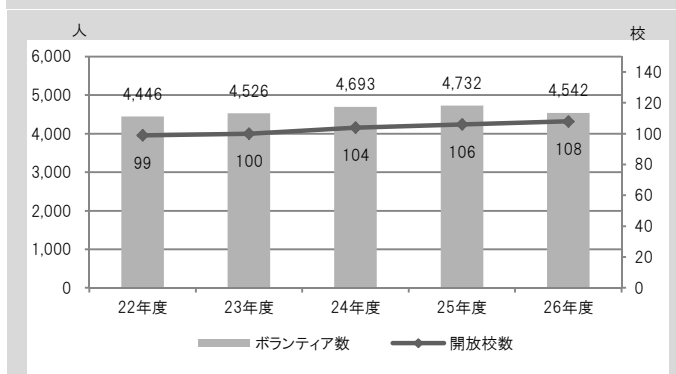
《これまでの取組及びその成果》

家庭・地域においては、札幌市家庭読書の日²¹から読書週間²²までを「さっぽろ家庭読書フェスティバル」期間とし、全市の図書館で行事を開催し、家庭読書に関する普及・啓発を行いました。また、保健センターの乳幼児健診の際に「さっぽろ親子絵本ふれあい事業」(ブックスタート)を実施したり、子育てサロン²³や保育所、児童会館などで絵本の読み聞かせや絵本をテーマにした「子育て講座」を実施したりするなど、子どもが絵本とふれあう機会の充実を図ってきました。このほか、学校図書館を地域住民に開放²⁴して、読み聞かせや紙芝居などを利用した子ども向け行事や講演会、読書会などの大人向



図表 6: さっぽろ親子絵本ふれあい事業の実施状況

札幌市保健福祉局、子ども未来局調べ



図表 7: 学校図書館の地域開放校及びボランティア数

札幌市教育委員会調べ

¹⁸ 【ブックスタート】1992年に英国で始まった絵本を通じて赤ちゃん和家人の心のふれあいを進め、子どもの言葉と豊かな心を育てる事業で、0歳児の健診時に赤ちゃん絵本、アドバイス集、絵本のリストなどを配布しおはなし会などを行うもの。

¹⁹ 【学校図書館図書標準】公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として、学級数などに応じて設定した蔵書冊数の基準のこと。

²⁰ 【子ども読書チャレンジプロジェクト】図書館や学校等の関係機関が連携を図りながら子どもの読書活動を効果的に推進していくためのプロジェクト。「図書館デビュー」などの図書館行事のほかに、「図書資源ネットワーク」などの事業がある。

²¹ 【札幌市家庭読書の日】平成20年3月にまとめた「札幌市の子ども読書活動促進の方針」に基づき、家族が一緒になって読書を楽しむことで家庭における読書活動の推進を図るために設けられた日。10月9日に設定。

²² 【読書週間】1947年(昭和22年)から開始された全国規模で毎年秋に行われる読書の普及・啓発期間(10月27日～11月9日)。

²³ 【子育てサロン】児童会館や地域の会館などを会場として、子育て中の親子や地域の方々が自由に集い、交流できる場のこと。

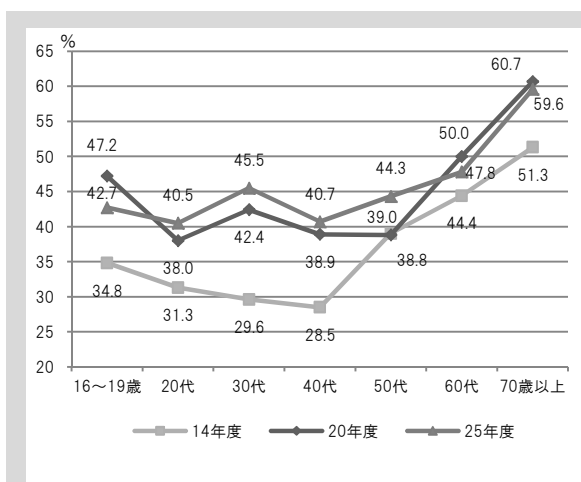
²⁴ 【学校図書館の地域開放】市立の小・中学校(平成27年3月現在108校で実施)で学校図書館を幼児から高齢者まで幅広く地域住民に開放している。

けの行事を実施し、地域の読書活動を推進しました。

《課題》

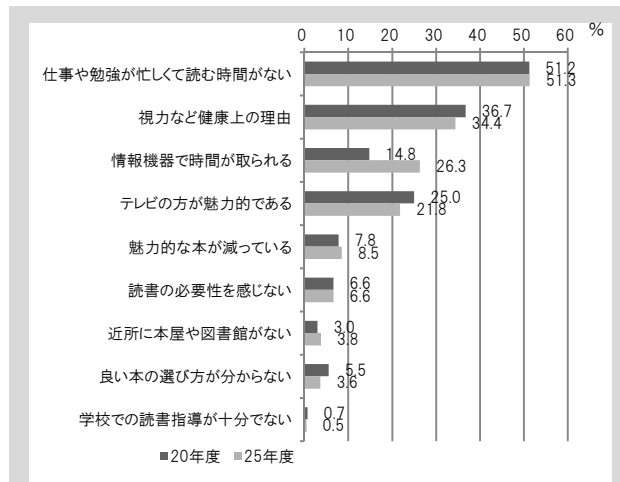
ア 家庭読書の普及・啓発・習慣化

子どもが乳幼児期から本に触れ、本に親しむ機会をつくるためには、家庭での読書活動が大切ですが、近年、全国的に仕事や勉強が忙しくて読書する時間がない、情報通信機器の利用で時間が取られるなどの理由で、読書をしない大人が増加する傾向があります。大人の行動は子どもに影響を与えるため、親世代の大人に対して読書への関心を高めることも大切です。大人も子どもと一緒に、読書の楽しさや喜びを共有できる機会を増やしていく必要があります。



図表 8: 1か月に本を1冊も読まない人の割合【年齢別】

「国語に関する世論調査」より



図表 9: 読書量が減っている理由

「国語に関する世論調査」より

イ ボランティアの育成

子どもの読書活動には、子どもや保護者に本の楽しさを伝える読み聞かせやおはなし会などで活躍するボランティアの存在が不可欠です。将来にわたって継続的に地域の読書活動を支えていくために、引き続きボランティアの育成を行うことが必要です。

(2) 図書館における取組の成果と課題

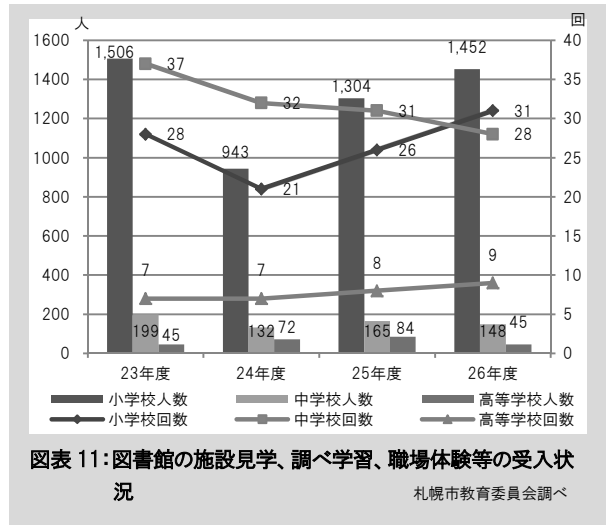
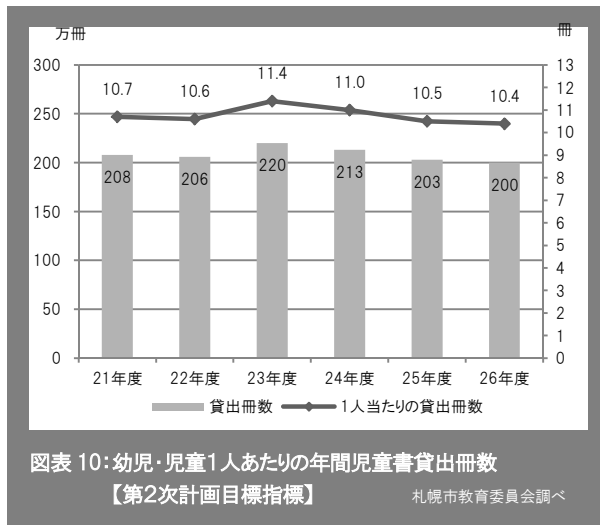
《これまでの取組及びその成果》

図書館では、子ども読書チャレンジプロジェクトの一環として、「図書館デビュー」「さっぽろっこ絵本づくり」「さっぽろっこ出版体験」などの新しい行事を実施するほか、読み聞かせやおはなし会、一日司書体験、夏休み行事などの催しものを行い、行事を通じて子どもの読書への関心を高める取組を進めました。また、調べ学習や職場体験などで図書館を活用した授業の受入を行うほか、小・中学校のインターネット・システム「ブックさあくる」²⁵により、学校を通じて、図書館の本の貸出を始めるなど、図書館と学校との連携を図りました。このほかに、CISEネットワーク²⁶に参加し、大学や研究機関と連携して科学に関する夏休み自由研究講座を行うとともに、科学をテーマに大学や研究機関の講師を招いて「サイエ

²⁵ 【ブックさあくる】市立小・中学校から図書館の本を借りられるインターネットを利用したシステムのこと。

²⁶ 【CISE ネットワーク】CISE (Community for Intermediation of Science Education) ネットワーク。北海道大学総合博物館が運営している札幌周辺地域の教育施設が連携し、地域住民への実物科学教育を進めるネットワークのこと。中央図書館で連携機関の専門家による子ども向けの「さけクイズ」「恐竜クイズ」等の行事を実施している。

ンスフォーラム」を開催し、文学だけでなく科学の分野にも幅を広げ、読書を通じて子どもの興味や関心を広げる活動を行いました。



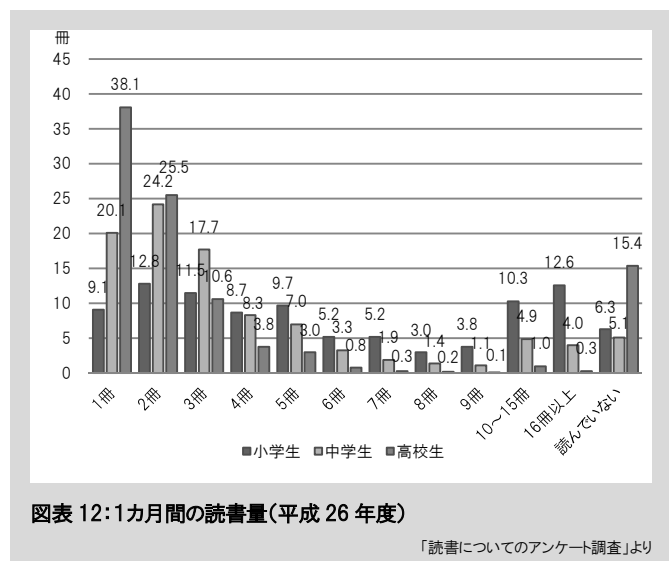
《課題》

ア 乳幼児への読書活動支援

子どもは、身近な人からたくさんの心地よい言葉を聞くことによって、深い愛情を感じ、安心感や信頼感を得て、共感する心や思いやりの心を身に付けていきます。絵本は、このような乳幼児期の子どもに大きな影響を与えるとともに、生涯にわたる読書活動のきっかけとして特に重要です。現在、既存の図書館において乳幼児から中学・高校生までの幅広い年代の子どもに対し支援を行っていますが、今後は、特に読書活動のきっかけづくりに重要な時期の乳幼児に対する支援の充実が望まれます。このため、新たに乳幼児期から保護者とともに本に触れ、本を楽しみ、ふれあいを深める環境をつくり、読書の習慣化につなげるための環境整備が必要となっています。

イ 中学・高校生への読書活動支援

子どもは発達段階に応じて、語彙力や文章を理解する能力、想像力のほか、共感する心や興味・関心も変化していきます。特に、思春期である中学・高校生にとって、読書は心身の成長に大きな力となりますが、この時期の子どもは勉強や部活動に忙しく、読書活動が減る傾向があります。このため、中学・高校生が少しでも読書に関心を持てるよう、中学・高校生の興味や関心のある分野から読書につなげる取組などを進める必要があります。また、読書活動を通じて、豊かな心や人間性を育むだけでなく、本や新聞などのさまざまな情報を収集し活用する能力を育成する取組も進めていく必要があります。



ウ ボランティア団体との連携

図書館の読み聞かせやおはなし会など各種行事で活躍するボランティアは、さまざまな手法で楽しみながら本の魅力や読書の楽しさを伝える重要な役割を担っています。今後も引き続き、技能を高め、子どもを引き付ける工夫を凝らした取組を行うために、ボランティアの育成や交流を図るとともに、図書館とボランティアが連携・協力を進める必要があります。

エ 学校との連携

子どもに対し読書活動への関心を高めるためには、図書館が学校と協力して、子どもの読書環境を整えていく必要があります。現在も、施設見学や調べ学習、職場体験などで図書館が活用されていますが、来館する学校は一部に止まっています。このため、今後は、図書館から職員が直接学校に出向くなどして、学校における読書環境整備に協力していく必要があります。

オ 障がいのある子どもへの読書活動支援

障がいのある子どもはそれぞれの障がいに応じた読書活動支援が必要です。図書館では、これまでに点字絵本や大活字本などの提供、館内案内表示の改善、コミュニケーションボード²⁷の配置などの取組を実施してきましたが、障がいのある子どもの読書への障壁を取り除くためには十分とは言えません。今後も引き続き、障がいのある子どもも利用できる本を充実させるほか、障がいのある子どもの立場に立った、より使いやすいサービスのあり方について検討していく必要があります。

(3) 学校等における取組の成果と課題

《これまでの取組及びその成果》

幼稚園では読み聞かせなどの読書活動が行われていますが、単独で多くの絵本を収集・保管することが難しいため、平成 23 年度から幼児教育センター²⁸で大型絵本や絵本の複本²⁹を収集し、幼稚園などへの貸出を始めました。

学校では、始業前や教科の時間を使った一斉読書を推進し、小学校と中学校のほぼ全校で実施するようになりました。また、学校図書館の蔵書の充実のため、全校で学校図書館図書標準の達成を目指して計画的な蔵書整備を行うとともに、「さっぽろ本の再活用パートナーシップ事業³⁰」に基づき、平成 22 年度から寄贈本の受入窓口を図書館にも拡大し、市民からの寄贈本の受入を進めるほか、平成 23 年 1 月から市内小・中学校にインターネット・システム「ブックさあくる」を導入し、図書館の蔵書を学校で借りられるシステムを開始しました。さらに、学校図書館の利用が一層進むよう、学校に学校図書館アドバイザー³¹や学校図書館

²⁷ 【コミュニケーションボード】文字や話し言葉によるコミュニケーションが難しい方々が紙に描いてあるイラストを指さすことで自分の意思を伝えるもの。

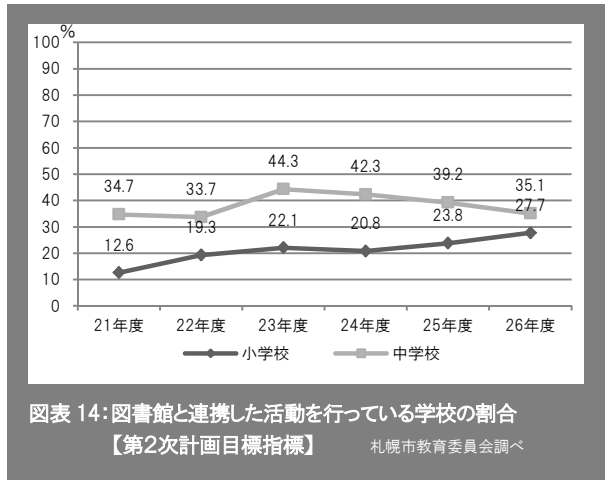
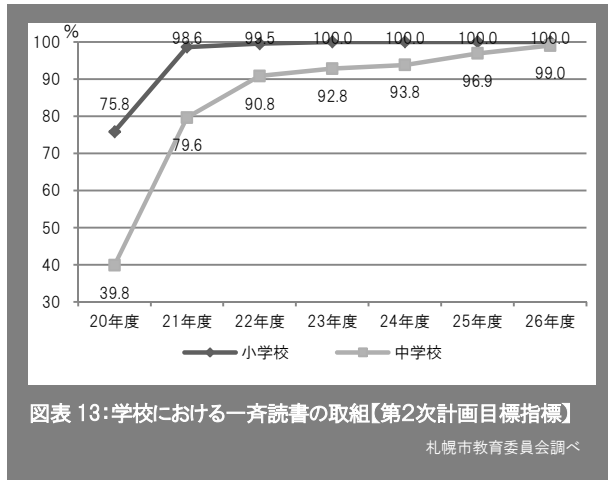
²⁸ 【幼児教育センター】札幌市の幼児教育振興を図る新たなしくみづくりの中核的な役割を担い、各区の市立幼稚園の機能を総括し、私立幼稚園と緊密に連携して、札幌市全体の幼児教育の水準向上を図る機関。

²⁹ 【複本】同じ書名、著者名の本を複数冊そろえること。

³⁰ 【さっぽろ本の再活用パートナーシップ事業】札幌市とボランティア団体が協力し、市民から不要となった本の寄贈を受け、学校図書館などに無償で提供する事業のこと。

³¹ 【学校図書館アドバイザー】学校図書館運営に造詣の深い元教職員や学識経験者のことで、直接学校図書館を訪問し、司書教諭や図書館担当者の悩みや疑問に答え、学校図書館の運営を支援している。

ボランティア³²が派遣され、学校図書館の運営や環境整備を行いました。このほか、「図書館モデル公開授業³³」として、中央図書館を活用して図書館の利用方法を学んだり、本を使った調べ学習を行ったりしています。



《課題》

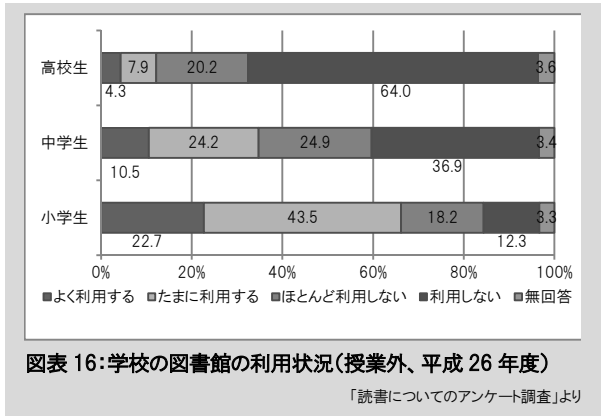
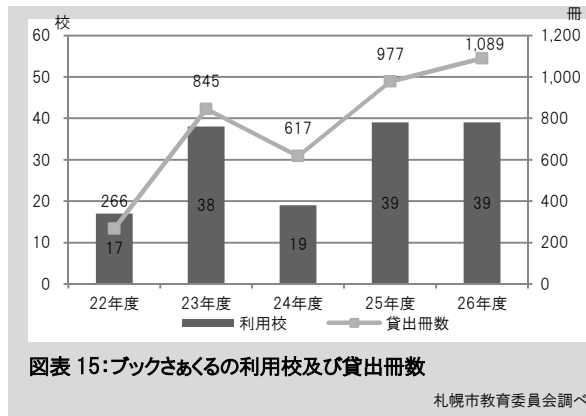
ア 図書館との連携

学校では図書館を使った調べ学習や職場体験などを行っていますが、利用は一部の学校に止まっています。また、図書館の本を学校で借りられる「ブックさあくる」の利用も少なく、今後の活用促進が課題となっています。多くの学校と図書館が連携を図り、それぞれの持ち味を生かして、子どもの読書活動や学習活動を支えていく必要があります。

イ 学校図書館の利用促進

学校図書館を利用する子どもは全体として少なく、学校段階が進むとともに減少しています。学校図書館は子どもの読書活動や学習活動を支える一番身近な場所です。子どもの利用が増えるよう、子どもの興味を引くような本の紹介や展示などを行うとともに、授業での活用を進められるような環境整備が必要です。

また、引き続き、全校で学校図書館図書標準の達成を目指して計画的に蔵書整備を進めるとともに、冊数だけでなく新聞などの時事情報や学習、子どもの興味・関心に沿った本を揃えるなど、充実した蔵書構成を目指す必要があります。



³² 【学校図書館ボランティア】 市立中学校及び地域開放を行っていない小学校に、貸出業務の補助などの活動をするために派遣されるボランティアのこと。

³³ 【図書館モデル公開授業】 市立小・中学校のモデル校の児童・生徒が中央図書館を訪問し、図書館を利用して調べ学習などを行う授業。

4 第2次計画の指標の結果について

第2次計画では、「学校における一斉読書の取組」、「幼児・児童1人あたりの年間児童書貸出冊数」、「図書館と連携した活動を行っている学校の割合」を目標指標として設定しました。計画期間内において、「学校における一斉読書の取組」については、図表13(p11)のとおり、ほぼ目標を達成しました。一方、「幼児・児童1人あたりの年間児童書貸出冊数」については、図表10(p9)のとおり、平成23年度には一時増加しましたが、それ以降は減少する傾向があります。この指標は図書館の貸出冊数をベースにしていますが、この数値が減少する傾向があるものの、前述のとおり、子どもの読書量には改善が見られることを鑑みると、この貸出冊数で子どもの読書量を把握することは難しい状況となっており、今後の指標としては再考の余地があるものと思われます。また、「図書館と連携した活動を行っている学校の割合」については、図表14(p11)のとおり、ブックさあくるが始まった影響で小学校では徐々に増加してきていますが、中学校では一時増加したものの、ブックさあくるの利用や図書館を活用した学習を行っている学校が一部に止まっているため伸び悩んでいます。子どもの読書活動を進めるうえで、図書館と学校との連携は課題となっており、図書館と連携した活動を行っている学校数を増やしていくために、今後も連携を強化する取組が必要です。一方で、学校図書館や地域の図書館を利用する子どもが少ない現状を考えると、図書館と学校との連携によって、子どもの読書環境を充実させることにより、実際に子どもが学校図書館や地域の図書館を活用して自主的に読書活動や学習活動を行っているかどうか目標の焦点を当てる必要があるのではないかと考えられます。

<目標指標>

区 分	平成21年度	平成26年度 実績	平成26年度 目標
学校における一斉読書の取組	小学校 98.6% 中学校 79.6%	小学校 100% 中学校 99.0%	100%
幼児・児童1人あたりの年間児童書貸出冊数	10.7冊	10.4冊	13.0冊
図書館と連携した活動を行っている学校の割合	小学校 12.6% 中学校 34.7%	小学校 27.7% 中学校 35.1%	100%

第3章 計画の基本的な考え方

読書は知識や教養を高めるだけでなく、判断力や思考力を鍛え、表現力やコミュニケーション力を育み、人生を豊かなものにします。特に、子どもの読書活動は、言葉を学び、自らの感性を磨いて表現力や創造力を豊かなものにするとともに、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、知的探究心や真理を求める態度を養うことで、個人の自立の基盤となる力を育むものとして欠くことのできないものです。読書の楽しさ、大切さを広く社会で認識し、子どもの興味や関心を尊重しながら、子どもが自主的に楽しく読書をする習慣を身に付けるとともに、読書活動を通じて、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、人生をより深く生きる力を育む環境づくりを進めていきます。

1 基本目標

この計画は、第2次計画で取り組んだ各種事業の成果と課題を踏まえ、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に進めることを目的とし、第2次計画を継承し、次の三つを基本目標として掲げ、引き続き社会全体で子どもの読書活動を進めるために取り組んでいきます。

基本目標 1 読書の楽しさにふれる

基本目標 2 読書の大切さを知る

基本目標 3 子どもの読書をみんなで支える

2 基本方針

計画の目標を達成するため、次のことを基本方針として推進していきます。

■基本方針 1

子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会の充実

子どもが読書の楽しさに触れるためには、その発達段階に応じて、それぞれの興味や関心を尊重しながら、自然に本に触れ、読書に親しむ機会をつくるのが大切です。本との楽しい出会いを通じて、子どもが自主的に読書をする習慣を身に付けるとともに、読書活動を通じて、情報を収集・活用して物事を探究する姿勢を養うなど、自ら学び、自ら考え、自ら行動する力を育んでいけるよう、市民参加による地域の力を活用した取組を行っていきます。

■基本方針 2

子どもの読書活動に関する普及・啓発

子どもの読書活動を進めるためには、社会全体で読書の意義や重要性について理解し、読書に関する興味や関心を高め、市民みんなで読書を楽しむ雰囲気をつくるのが大切です。読書活動に関する普及・啓発に努め、読書活動を推進する市民意識の醸成を図ります。

■基本方針 3

子どもの読書環境の充実

子どもの自主的な読書活動を支えるためには、家庭・地域、図書館、学校等、あらゆる機

会にあらゆる場所で本に触れ、読書に親しむ環境をつくるのが大切です。子どもの興味や関心を引き付け、子どもの成長を促す読書環境をつくり、子どもの幅広い読書活動や学習活動を支えていきます。

また、社会全体で読書活動の推進に取り組むため、子どもの読書活動に関わる機関や団体が特色を生かしながら、相互に連携して、子どもの読書環境づくりを進めていきます。

3 計画の指標

今後、新たに子どもの読書活動を推進するためには、読んだ本の冊数など読書の量的な増加だけを求めるのではなく、子どもが自主的に読書をする習慣を身に付けるとともに、読書活動を通じて、意欲的に自ら学び、自ら考え、自ら行動する力を育むための環境を整えることに重点を置く必要があります。この成果を数値で表すことは困難なことです。この計画では、計画の進捗状況や成果を客観的に判断する材料の一つとして、PDCAサイクル³⁴の考え方にに基づき、基本目標の達成度を評価することに配慮するとともに、子どもの望ましい読書活動状況を考え、次のとおり設定します。

<目標指標>

基本目標	指標項目	平成26年度	平成31年度 目標値
1	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり10分以上読書する子どもの割合（※1）	小6 66.0% 中3 57.3%	小6 70.0% 中3 70.0%
2	読書が好きな子どもの割合（※2）	小6 75.9% 中3 74.9%	小6 78.0% 中3 78.0%
3	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に月1回以上行く子どもの割合（※3）	小6 39.4% 中3 15.1%	小6 55.0% 中3 26.0%

※1 「全国学力・学習状況調査」において「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問に対して「10分以上」と回答した児童生徒の割合

※2 「全国学力・学習状況調査」において「読書は好きですか」の質問に対して「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

※3 「全国学力・学習状況調査」において「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問に対して「月1回以上」と回答した児童生徒の割合

³⁴ 【PDCAサイクル】 plan（立案・計画）、do（実施）、check（検証・評価）、action（改善）の頭文字を取ったもので、計画から見直しまでを一貫して行い、さらにそれを次の計画や事業に生かそうというもの。

4 計画の体系

基本目標 1 読書の楽しさにふれる

基本方針 1 子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会の充実

- 1 乳幼児期における読書活動の推進
- 2 小学生期における読書活動の推進
- 3 中学・高校生期における読書活動の推進

基本目標 2 読書の大切さを知る

基本方針 2 子どもの読書活動に関する普及・啓発

- 普及・啓発の推進

基本目標 3 子どもの読書をみんなで支える

基本方針 3 子どもの読書環境の充実

- 1 家庭・地域の読書環境の整備
- 2 図書館の読書環境の整備
- 3 学校等の読書環境の整備
- 4 関係機関・団体の連携・協力の推進

第4章 子どもの読書活動推進のための方策

第1節

基本方針1 子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会の充実

子どもの立場に立って、効果的に読書活動を進めるためには、子どもの成長に配慮することが大切です。子どもの発達段階に応じて、自主的に読書をする習慣が身に付くよう取組を行います。

1 乳幼児期における読書活動の推進

子どもにとって乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎をつくる極めて重要な時期にあたります。この時期の子どもの成長には、絵本や紙芝居、昔話など、いろいろな楽しいお話が欠かせません。これらを通じて、楽しいお話を聞きながら、読み手と心を通わせて豊かな感性を育むとともに、さまざまな言葉や表現に触れることで、想像力や創造性を伸ばしていくことは、大変意義深いことです。

子どもが乳幼児期から本に触れ、本に親しむ機会が増えるよう、地域や図書館など、市内のさまざまな施設で子どもと保護者が気軽に読書を楽しめる取組を進めます。

《取組項目》

No.	取組名	取組内容
1	絵本とふれあう機会の充実【家庭・地域】 <small>35</small>	保健センターの10か月児健診の際に、絵本に親しむ機会を提供し、親子が心ふれあうきっかけをつくるため、絵本を配布し（さっぽろ親子絵本ふれあい事業）、絵本の読み聞かせを行います。また、絵本の読み聞かせの際に、絵本に関するパンフレットを配布し、パンフレットで紹介している絵本を子育て総合支援センター、区保育・子育て支援センター（ちあふる）、区子育て情報室などに配架しておくことで、子育て家庭が継続して絵本とふれあう機会を提供していきます。
2	子育てサロンや保育所開放における読書活動【家庭・地域】	子育てサロンや保育所開放 ³⁶ で、親子を対象とした読み聞かせや保護者への絵本に関する講座などを実施します。子育て情報コーナーや開放している保育所などの絵本の整備を進めます。

³⁵ 第1節、第2節では、家庭・地域での取組は【家庭・地域】、図書館での取組は【図書館】、幼稚園・保育所での取組は【幼稚園・保育所】、学校での取組は【学校】と表記しています。

³⁶ 【保育所開放】保育所のノウハウを生かし、地域の親子が気軽に集い、施設内の遊具を使って遊んだり、入所児との交流や育児相談、子育ての情報交換をしたりする場として保育所の開放を行っている。

No.	取組名	取組内容
3	乳幼児・保護者向け 読書活動【図書館】	乳幼児期の子どもや保護者のための行事の実施やサービスプログラムの開発を行い、子どもや保護者が共に本に触れ、本に親しむ機会をつくります。
	① 乳幼児・保護者向け 行事の実施	絵本の読み聞かせやおはなし会などさまざまな行事を実施したり、絵本のブックリストや読書ノートを配布したりします。
	② 年齢に応じたサ ービスプログラ ムの開発 《新規》	(仮称) 絵本図書館 ³⁷ では、保護者向けに絵本の読み聞かせや絵本 選びの講座などを実施するとともに、0～1歳向け、2～3歳向 けなどの年齢に応じたサービスプログラムを開発して行事を行 います。このほか、妊娠期から保護者に対し絵本の紹介講座など を実施し、絵本の魅力やその役割を伝え、絵本を通じた子どもと のふれあいを深めるきっかけづくりを行います。
4	幼稚園・保育所な どの団体利用【図書館】 《新規》	(仮称) 絵本図書館において、新たに絵本の読み聞かせやおは なし会などの団体用プログラムを用意し、幼稚園や保育所などを 団体で受け入れます。また、来館できない幼稚園や保育所などへ 出向き、団体用プログラムを実施します。
5	絵本の読み聞かせの 実施【幼稚園・保育 所】	幼児が絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する 楽しさを味わうことができるよう、教員・保育士やボランティア による読み聞かせを行います。
6	保護者向け講座・講 習会の開催【幼稚 園・保育所】	幼児が絵本や物語などに親しみ、読み手と心を通わせる楽しさを 味わうことができるように、保護者自身が読み聞かせを体験する 講座や絵本に関する講座などを行います。
7	おすすめ絵本の紹介 や貸出の実施【幼稚 園・保育所】	絵本に対する興味や関心を高め、より多くの絵本に親しむき っかけづくりとなるよう、おすすめ絵本を展示したり、リストを 配布したりするなどの取組を実施します。家庭でも読み聞かせを 通して親子のふれあいを深められるよう、絵本の貸出を行います。

³⁷ 【(仮称) 絵本図書館】白石区複合庁舎内に平成28年11月にオープンする絵本を中心に集めた図書館(詳細については31ページにあります)。

2 小学生期における読書活動の推進

子どもは小学生になると、絵本から児童書へと読み進めていきますが、一般的に、小学1年生から小学3年生までは語彙が増え、基礎的な読書能力が完成し、読書習慣が身に付く時期であり、小学4年生からは自発的に多くの本を読み、目的に応じて自分で本を選び、内容の評価や鑑賞ができるようになる時期と言われています。また、単に本を読むだけでなく、本や新聞などを活用した調べものを学び、新しい世界や考え方に出会っていきます。このように、小学生期は多くの本と出合う大切な時期です。子どもが魅力的な本との出会いや楽しい体験を通じて、自主的に読書をする習慣を身に付けられるよう、子どもの興味や関心を喚起し、子どもの好奇心を満たす楽しい読書活動を進めていきます。

《取組項目》

No.	取組名	取組内容
1	児童会館における読書活動【家庭・地域】	児童会館の本の貸出やボランティア、児童会館職員による読み聞かせなどの行事を充実させます。
2	開放図書館における読書活動【家庭・地域】	地域開放した学校図書館を中心として、地域のボランティアが簡易なレファレンスサービス ³⁸ などの基本的業務のほか、児童・幼児を中心とした読み聞かせなどのイベントを実施します。
3	小学生向け読書活動【図書館】 レベルアップ	小学生向けの行事や展示、本の紹介、読書ノートの配布などを通じて、子どもに本の楽しさを伝えます。また、新たに児童会館などで出前講座を行い、読書や学習、調べものに役立つ図書館の使い方の啓発を行います。
4	小学校への支援【図書館】 《新規》	図書館と小学校が連携して、学校の読書活動や学習活動を支援するため、新たに司書教諭 ³⁹ などからの司書実務に関する相談に応じます。また、学校の求めに応じて図書館の使い方や調べものの方法についてガイダンスを行うほか、必要な本や読書活動に関する情報の提供を行います。このほか、図書館の施設見学や職場体験、調べ学習などの受入を進めます。
5	読書に親しむ機会の充実【学校】	各学校における始業前や教科の時間を使った一斉読書を実施します。休み時間や放課後の時間を活用した読み聞かせやブックトークなどを行う読書会などを行います。新刊本の紹介や感想文コンクールなどへの応募など、子どもの読書意欲の向上を図る機会を促進します。

³⁸ 【レファレンスサービス】何らかの情報や本などを求めている人に対して、図書館職員が求められている情報や本などを提供することによって援助する業務のこと。

³⁹ 【司書教諭】「学校図書館司書教諭講習課程」による科目（5科目10単位）を履修した教員で、任命権者によって司書教諭として発令された教員のこと。主に学校図書館の管理・運営や子どもの読書に関する指導を行う。

No.	取組名	取組内容
6	子ども向け優良図書の情報提供【学校】	子どもの読書活動を促進するため、優良図書に関する各家庭への情報提供を行います。
7	図書館モデル公開授業【学校】	小・中学校のモデル校が中央図書館を訪問し、児童生徒が授業の一環として調べ学習などの授業を行います。



トピックス

図書館では子どもたちが楽しめる新しい行事を実施したり、図書館を活用した授業に協力したりして、子どもの読書活動を推進しています。

■ぬいぐるみのお泊まり会

子どもが自分のぬいぐるみを一晩図書館に預けて、翌日迎えに行く催しです。ぬいぐるみは閉館後に図書館を探検したり、絵本を読んだりして、一晩館内で過ごします。翌日ぬいぐるみを迎えに来た子どもには、ぬいぐるみの図書館での様子をまとめたアルバムなどをプレゼントし、希望者にぬいぐるみが選んだ本を貸し出します。



ぬいぐるみと一緒に話を聞きます



ぬいぐるみが夜の図書館を探検。友達におすすめする本を探しています

■図書館について学ぶ読書活動

◎一日司書体験

図書館の仕事を体験しながら、図書館のしくみや役割について学ぶ行事を行っています。



絵本の棚の整理をしました

◎図書館を活用した授業

市内外の小学校・中学校・高等学校から児童生徒が図書館を訪れ、図書館を活用した読書活動や学習活動を行っています。



本のPOPを作成してみんなに発表しました

3 中学・高校生期における読書活動の推進

子どもは中学生になると、大人の本を読み、読書の目的や本の種類に応じた読み方ができるようになると言われます。さらに、高校生になると、高度な本を読んだり、本を読んで考え、評価したりすることで、自己の向上につなげていくことができるようになります。中学・高校生は読書活動が減少する傾向がありますが、この時期は心身が著しく成長し、人としての在り方や生き方を考える時期でもあり、これからの自分自身を見つめ、自らの生き方を考える上で、読書は大きな力になります。中学・高校生の興味や関心のあることから読書のきっかけづくりに取り組むとともに、情報リテラシーを育成して課題探究的な学習に生かし、生涯を通じて幅広く読書を楽しみ、自ら学び続けていく姿勢を身に付けられるよう支援を行います。

《取組項目》

No.	取組名	取組内容
1	中学・高校生向け読書活動【図書館】 レベルアップ	中学・高校生向けのコーナーを設置し、中学・高校生の興味や関心のある分野の行事や展示などを通じて、読書のきっかけづくりを行いながら読書活動の幅を広げていきます。また、出前講座などを活用して、情報リテラシーを育成し、本や新聞、インターネットなどのさまざまな情報を活用した課題探究的な学習を支援します。このほか、平成30年度に新設する札幌市図書・情報館 ⁴⁰ の仕事や暮らしに役立つ調査相談・情報支援機能を生かし、課題解決のための情報リテラシーの育成を支援していきます。
2	中学校への支援【図書館】 《新規》	図書館と中学校が連携して、学校の読書活動や学習活動を支援するため、新たに図書館職員（司書）が学校図書館を訪問したり、司書教諭や学校司書などからの司書実務に関する相談に応じたりします。また、学校の求めに応じて図書館の使い方や調べものの方法についてガイダンスを行うほか、必要な本や読書活動に関する情報の提供を行います。このほか、図書館の施設見学や職場体験、調べ学習などの受入を進めます。
3	学校司書の配置【学校】 《新規》	学校図書館の機能を強化し、生徒の読書への興味や関心を向上させ、読書活動や学習活動を促進するため、全ての市立中学校に学校司書（学校図書館司書）を配置 ⁴¹ します。また、教員と学校司書が連携して学校図書館を活用した学習を行い、その取組内容を共有していきます。

⁴⁰ 【札幌市図書・情報館】中央区北1条西1丁目に平成30年度にオープン予定の札幌市民交流プラザ内に設置され、仕事や暮らしの調査相談・情報支援や札幌・北海道の魅力発信を行う課題解決型図書館。

⁴¹ 【学校司書（学校図書館司書）を配置】札幌市では学校司書の名称を「学校図書館司書」とし、複数校を一人が担当することを基本的に配置します。

No.	取組名	取組内容
4	中学校・高等学校図書委員会（図書局）による特色ある取組発表【学校】	図書委員会（図書局）による読書活動を充実させるための特色ある取組の発表及び表彰を通して、図書委員会活動の活性化を図り、生徒の読書活動を促進します。
5	読書に親しむ機会の充実【学校】（再掲）	各学校における始業前や教科の時間を使った一斉読書を実施します。休み時間や放課後の時間を活用した読み聞かせやブックトークなどを行う読書会などを行います。新刊本の紹介や感想文コンクールなどへの応募など、子どもの読書意欲の向上を図る機会を促進します。
6	子ども向け優良図書の情報提供【学校】（再掲）	子どもの読書活動を促進するため、優良図書に関する各家庭への情報提供を行います。
7	図書館モデル公開授業【学校】（再掲）	小・中学校のモデル校が中央図書館を訪問し、児童生徒が授業の一環として調べ学習などの授業を行います。



トピックス

市内の中学校・高等学校で、読書活動や学習活動を充実させるための取組を実践しています。

■中学校・高等学校図書委員会（図書局）による特色ある取組発表

特色ある取組を行った中学校・高等学校の図書委員会（図書局）が、読書週間に行われる「図書館オータムガーデン」で取組の発表をしています。発表校には賞状と記念品が贈られ、教育委員会のホームページなどで発表内容を公開しています。



委員会の取組内容を発表

■学校司書を活用した授業

中学校で学校図書館にある本を活用し、教員と学校司書が連携して、調べ学習を行いました。



辞書や事典を使った調べ方を学びました

第2節

基本方針2 子どもの読書活動に関する普及・啓発

普及・啓発の推進

子どもは成長とともに、幼稚園、保育所、学校など家庭以外の場での読書経験を積み重ねていきますが、家庭においても、読書に対する興味や関心を深めていくよう工夫することが大切です。家族で共に読書する時間を持ち、読書を介したコミュニケーションを通じて、家族の間に自然な会話や心のふれあいが生まれます。家庭では、日ごろから保護者などの大人が率先して読書に親しむとともに、子どもと一緒に地域の図書館や書店などに出かけたり、家族で本をすすめあったりするなど、読書の楽しさや喜びを共有できる環境づくりに努める必要があります。

このように家庭など、あらゆる場所で読書活動を進めるためには、広く市民に、読書がもつ意義や重要性について理解を促し、読書に対する興味や関心を深めていく必要があります。広報さっぽろやポスター、チラシ、インターネットだけでなく、報道機関などさまざまなメディアを通じて、あらゆる機会を捉えて、読書活動の普及・啓発に努め、社会全体で読書活動を広げていく雰囲気づくりを進め、自然に身近に本のある生活意識の醸成を図っていきます。

《取組項目》

No.	取組名	取組内容
1	子ども読書チャレンジプロジェクト レベルアップ	家庭・地域、図書館、学校等が相互に連携協力して、総合的に子どもの読書活動の普及・啓発を推進します。 家庭・地域に対しては、ボランティアの育成を図るとともに、家庭読書の楽しさを伝えるセミナーなどを実施します。また、子どもに対しては、発達段階に応じた読書活動推進を図るため、乳幼児向けに図書館デビュー、小学生向けに進路探究オリエンテーション、中学・高校生向けに図書委員会（図書館）の交流プログラムなど、本や図書館を活用した行事を行い、体験を通じて子どもの読書活動や学習活動の充実を図っていきます。
2	家庭読書の普及・啓発 【家庭・地域】 レベルアップ	札幌市家庭読書の日（10月9日）から読書週間までの期間を「さっぽろ家庭読書フェスティバル」とし、市内各所で読書に関するイベントを集中的に行い、家庭での読書の普及・啓発を行います。また、新たに保護者と子どもが一緒に楽しめる工作会などの行事を実施したり、保護者に読書に関する情報を提供したりするなど、乳幼児期から家庭で読書を楽しむ機会を増やす取組を行います。

No.	取組名	取組内容
3	全館特別行事の実施 【図書館】	子ども読書の日（4月23日） ⁴² に合わせて、全館で特別行事を行い、読書活動の啓発に努めます。
4	「デジタルネイティブ世代」への普及・啓発【図書館】 《新規》	生まれたとき、または物心つくころからインターネットやパソコンなどのある生活環境で育ち、多くの情報をインターネットから得ている「デジタルネイティブ世代」に向けた読書普及策として、子ども向けの電子書籍を充実させるほか、デジタル絵本の体験やデジタル絵本ツールを使った絵本づくりなど、デジタルコンテンツ ⁴³ を活用した新しい手法で読書推進の普及・啓発を行います。
5	乳幼児・保護者向け読書活動【図書館】（再掲）	乳幼児期の子どもや保護者のための行事の実施やサービスプログラムの開発を行い、子どもや保護者が共に本に触れ、本に親しむ機会をつくります。
①	乳幼児・保護者向け行事の実施（再掲）	絵本の読み聞かせやおはなし会などさまざまな行事を実施したり、絵本のブックリストや読書ノートを配布したりします。
②	年齢に応じたサービスプログラムの開発 《新規》（再掲）	（仮称）絵本図書館では、保護者向けに絵本の読み聞かせや絵本選びの講座などを実施するとともに、0～1歳向け、2～3歳向けなどの年齢に応じたサービスプログラムを開発して行事を行います。このほか、妊娠期から保護者に対し絵本の紹介講座などを実施し、絵本の魅力やその役割を伝え、絵本を通じた子どもとのふれあいを深めるきっかけづくりを行います。
6	小学生向け読書活動【図書館】 レベルアップ（再掲）	小学生向けの行事や展示、本の紹介、読書ノートの配布などを通じて、子どもに本の楽しさを伝えます。また、新たに児童会館などで出前講座を行い、読書や学習、調べものに役立つ図書館の使い方の啓発を行います。
7	中学・高校生向け読書活動【図書館】 レベルアップ（再掲）	中学・高校生向けのコーナーを設置し、中学・高校生の興味や関心のある分野の行事や展示などを通じて、読書のきっかけづくりを行いながら読書活動の幅を広げていきます。また、出前講座などを活用して、情報リテラシーを育成し、本や新聞、インターネットなどのさまざまな情報を活用した課題探究的な学習を支援します。このほか、平成30年度に新設する札幌市図書・情報館の仕事や暮らしに役立つ調査相談・情報支援機能を生かし、課題解決のための情報リテラシーの育成を支援していきます。

⁴² 【子ども読書の日】国民に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、「子どもの読書活動の推進に関する法律」で定めたもの。シェイクスピアとセルバンテスの命日である4月23日をUNESCO（国際連合教育科学文化機関）が「世界・本と著作権の日」と宣言していることなどにちなんでいる。

⁴³ 【デジタルコンテンツ】デジタルデータで表現された文章、音楽、画像、データベース、または、それらを組み合わせた情報の集合のこと。

No.	取組名	取組内容
8	図書館情報の発信【図書館】	読書への興味や関心をより深めるために、子ども向けの行事案内「図書館だより」の内容の充実を図るとともに、広報さつぽろやポスター、チラシだけでなく、さまざまなメディアを通じて図書館や読書活動に関する情報を積極的に発信します。
①	キッズページによる情報発信	図書館の利用方法や本の探し方、行事の情報などをわかりやすく発信するとともに、子ども向けの読み物や調べ学習に役立つ情報を提供するなど、読んで楽しいページづくりに努めます。
②	中学・高校生向けページの開設 《新規》	キッズページとは別に中学・高校生向けのホームページを新たに開設し、中学・高校生向けの本の紹介や行事、調べものに関する情報などを発信し、中学・高校生の学習や生活に役立つページづくりに努めます。
③	教員及び学校司書向け情報発信 《新規》	図書館と学校との連携を進め、学校における読書活動や図書館を活用した学習を広げるため、新たに教員や学校司書に向けて、施設見学や図書館を活用した学習、読書活動などの情報を提供します。
9	子ども向け優良図書の情報提供【学校】(再掲)	子どもの読書活動を促進するため、優良図書に関する各家庭への情報提供を行います。



トピックス

図書館では電子書籍への対応を進めています。

■電子図書館の開設

図書館では平成26年10月27日に電子図書館を開設し、電子書籍の貸出を始めました。電子図書館には、開始当初、北海道関係の本や文学、絵本など約2,900タイトルを揃え、順次収集を進めています。電子書籍は貸出返却の手間がかからず、文字を大きくしたり読み上げたりする機能があるなど、紙の本とは異なる特性があるため、これらを生かして、障がいのある方への読書支援など、いろいろな可能性が指摘されています。

■デジタル絵本の読み聞かせ

実験的にデジタル絵本を使って読み聞かせをするおはなし会を開催しました。たくさんのお子さんが参加してくれました。



大きい画面に映し出される絵本にわくわく

第3節

基本方針3 子どもの読書環境の充実

1 家庭・地域の読書環境の整備

地域には、子どもの読書活動を支援する場がたくさんあります。幼稚園・保育所、学校とは異なり、保護者あるいは子どもが自らの意志でこうした場を利用し、読書活動を通して地域とのふれあいを持ちながら、さまざまな人とのコミュニケーションを図っていくことは、大変意義深いことです。学校図書館の地域開放を進めるほか、児童会館や子育てサロンなどで、地域の子どもや市民の読書環境づくりに努めます。

また、地域では、読み聞かせなどさまざまな場面において、ボランティアの活躍は不可欠です。これからも、地域のボランティアが活躍できるよう、研修などを通じて育成を行っていくとともに、ボランティア間の交流を図っていきます。また、地域での読書活動を進めるため、ボランティアの活躍の機会を広げ、子どもの読書活動の場を充実させていきます。

《取組項目》

No.	取組名	取組内容
1	読み聞かせボランティアの研修	札幌市ボランティア活動センター ⁴⁴ では、読み聞かせボランティアの育成・支援の一環として「子どもへの読み聞かせボランティア研修」を行っており、今後もボランティアの資質向上や新たなボランティアの養成に努めます。
2	児童会館の図書の実	児童会館では、子どもたちがいつでも自発的に学習に取り組むことができるように学習図書の充実に努めます。また、札幌市図書再活用ネットワークセンター ⁴⁵ の活用などにより、その他の蔵書の充実も図ります。このほか、読書活動を通して子どもが本を身近に感じ、興味や関心を持つきっかけとなるよう、本の紹介の工夫や子どもの成長に応じた本を充実させるなど、図書コーナーの環境づくりに努めます。
3	絵本基金「子ども未来文庫」事業	企業や団体、市民の皆さまから絵本の寄贈を募り、絵本基金「子ども未来文庫」の絵本として、子育て支援総合センター、区保育・子育て支援センター（ちあふる）、市立保育所、区子育て情報室などで、子どもが絵本とふれあう機会を広げていきます。

⁴⁴ 【札幌市ボランティア活動センター】札幌市社会福祉協議会が設置し、ボランティアを行うために必要な知識・技術を学ぶための研修や実際にボランティアを行っている人の技術の向上を目的としたさまざまな研修を行っている。

⁴⁵ 【札幌市図書再活用ネットワークセンター】「さっぽろ本の再活用パートナーシップ事業」の拠点で、不要になった本を引き取り、それらをクリーニング・補修したうえで、学校図書館や保育施設などに無償で提供する活動を行っている。

No.	取組名	取組内容
4	子育てサロンや保育所開放における読書活動（再掲）	子育てサロンや保育所開放で、親子を対象とした読み聞かせや保護者への絵本に関する講座などを実施します。子育て情報コーナーや開放している保育所などの絵本の整備を進めます。
5	学校図書館の地域開放の促進 レベルアップ	学校図書館地域開放校を増やし、学校図書館を幼児から高齢者まで幅広く地域住民への開放を進め、子どもや地域の読書活動を盛んにします。また、開放図書館運営を担うボランティアを養成するため、学校図書館電算システムの使い方などの研修を行います。

2 図書館の読書環境の整備

図書館は、子どもから大人まであらゆる年齢層の人々が集い、本を通じて自ら学び、考え、創造し、より豊かな生活の実現を目指す生涯学習の情報拠点です。札幌市では、市内45か所に図書施設を設け、このうち41か所で電算システムと物流システムを構築し、どの図書施設でも全市の蔵書の予約、貸出、返却ができるとともに、インターネットによる蔵書検索や予約も行えるようになっています。

また、図書資源ネットワークを利用して、図書館の蔵書を市立の小・中学校を通じて貸出しています。今後も、図書館では、子どもが楽しめ、役に立つ幅広いジャンルの本を収集し、子どもが手に取りやすい工夫をして子どもと本との出会いの場を提供していきます。

さらに、乳幼児期の子どもが保護者ととともに、本と触れる機会を持ち、本を楽しみ、読書に親しむ習慣が身に付くよう、絵本を中心に集めた（仮称）絵本図書館を設置します。

また、障がいのある子どもも本に親しみ、本を楽しむ機会を多く持つことが大切です。障がいのある子どもも楽しめる本を提供したり、関係機関や団体と連携したりすることで、障がいのある子どもも読書を楽しめるような環境づくりに努めます。

《取組項目》

No.	取組名	取組内容
1	（仮称）絵本図書館の設置 《新規》	絵本を中心に、子どもが乳幼児期から本に触れ、本に親しむことで、読書の習慣を身に付けられるよう、白石区複合庁舎内に（仮称）絵本図書館を設置します。絵本のほか絵本関連の研究書を整備し、乳幼児期の子どもの読書活動支援を行うボランティアや教育者を支援するほか、保護者に対し、絵本を通じた子育ての支援を行うなど、絵本専門図書館として、（仮称）絵本図書館ならではのサービスを全市的に展開していきます。

No.	取組名	取組内容
2	絵本・児童書の充実	絵本や児童書を充実させるほか、子どもの読書活動を進めるための児童書関連の研究書の収集も行います。また、テーマ別で本を展示したり、表紙が見えるように配架したりするなどし、子どもの読書意欲を高めます。
3	「デジタルネイティブ世代」への普及・啓発 《新規》(再掲)	生まれたとき、または物心つくころからインターネットやパソコンなどのある生活環境で育ち、多くの情報をインターネットから得ている「デジタルネイティブ世代」に向けた読書普及策として、子ども向けの電子書籍を充実させるほか、デジタル絵本の体験やデジタル絵本ツールを使った絵本づくりなど、デジタルコンテンツを活用した新しい手法で読書推進の普及・啓発を行います。
4	さっぽろデジタル絵本事業 《新規》	札幌の文化芸術、歴史、自然などの魅力をモチーフとした絵本作品を募集し、応募作品を電子図書館の所蔵コンテンツとし、絵本を通じて、道内外の子どもが札幌の魅力に触れる機会を創出するとともに、絵本作家や画家などの活動の支援にもつなげます。
5	障がいのある子どもたちへのより充実した対応	視聴覚障がい者情報センター ⁴⁶ などとの連携をより促進するとともに、障がいのある子どもも楽しめる点字絵本や大活字本、布の絵本、デジタル絵本など、さまざまな障がいに対応した本の収集に努めます。障がいのある子どもが図書館を利用しやすいように、様々なサービスのあり方について検討を進めます。
6	図書資源ネットワークの活用	インターネット予約システムを活用し、子どもや教員が図書館の蔵書を各学校で貸出・返却することができる「ブックさあくる」を活用して、図書館の本を提供します。また、市民からの寄贈本を学校等で再利用する「さっぽろ本の再活用パートナーシップ事業」の利用促進を図っていきます。
7	職員に対する研修の実施	行事の実施や読書に関する相談、レファレンスサービスへの対応など、子どもや保護者などに対する支援を充実させるため、内部研修を実施したり、外部の専門研修などに派遣したりするなどし、職員の能力の向上を図ります。
8	外国語の絵本・児童書の収集及び多文化理解の促進	母語を日本語としない外国の子どもだけでなく、日本の子どもにとっても外国のさまざまな文化や考え方の理解の促進につながる外国語で書かれた絵本や児童書の収集を行います。
9	再利用図書の無償譲渡	図書館・図書室で役割を終えた本を学校図書館や児童会館、幼稚園などの各種団体で再利用するために、無償譲渡を行い、図書館と団体との連携を図り、再利用図書の有効活用に努めます。

⁴⁶ 【視聴覚障がい者情報センター】視覚と聴覚に障がいのある人のために情報支援・コミュニケーション支援を行っている札幌市の施設。点字図書及び音声図書の貸出や手話通訳派遣などを行っている。

3 学校等の読書環境の整備

幼稚園や保育所では、教員や保育士、ボランティアなどによる読み聞かせを行うほか、保護者などに対しても、おすすめ絵本の紹介や貸出を通じて、読み聞かせの楽しさや大切さを伝えています。こうした子どもと保護者が多くの絵本とふれあう機会を提供するために、各施設に絵本を整備するほか、大型絵本などの共同利用を行います。

また、札幌市の幼稚園や学校では、自然環境・人的環境・文化的環境などを生かした札幌らしい特色ある学校教育として、「雪」「環境」のほかに、生涯にわたる学びの基盤となる活動として「読書」を掲げ、読書に親しむ機会づくりに取り組んでいます。

このような学校の活動を支えるため、学校図書館の蔵書の整備やブックさあくるの活用を進めて学校図書館の資料面での充実を図るとともに、中学校に学校司書を配置して、司書教諭や学校司書を生かした学校全体の協力体制の下で、子どもが主体的、意欲的に読書活動や学習活動に取り組めるよう環境の整備に努めます。

《取組項目》

No.	取組名	取組内容
1	幼児用絵本の共同利用	幼児が本に親しむ機会を充実させるため、幼稚園で単独では整備することが難しい大型絵本などを集中整備し、幼稚園や保育所などに貸し出すことで共同利用を行います。
2	教員や保育士に対する研修の実施	絵本の意義や選び方、読み聞かせなどについて教員に対する研修を行い、能力の向上を図ります。 札幌市保育士研修推進計画に基づき、保育士の専門性を高め、親子への読み聞かせや保育所の子ども達への読み聞かせなど、実践の経験を重ねることで読み聞かせのスキルを向上させると共に、研修や講習会にも積極的に参加するよう意識の向上を図ります。
3	図書館による小学校への支援 《新規》(再掲)	図書館と小学校が連携して、学校の読書活動や学習活動を支援するため、新たに司書教諭などからの司書実務に関する相談に応じます。また、学校の求めに応じて図書館の使い方や調べものの方法についてガイダンスを行うほか、必要な本や読書活動に関する情報の提供を行います。このほか、図書館の施設見学や職場体験、調べ学習などの受入を進めます。

No.	取組名	取組内容
4	図書館による中学校への支援 《新規》(再掲)	図書館と中学校が連携して、学校の読書活動や学習活動を支援するため、新たに図書館職員(司書)が学校図書館を訪問したり、司書教諭や学校司書からの司書実務に関する相談に応じたりします。また、学校の求めに応じて図書館の使い方や調べものの方法についてガイダンスを行うほか、必要な本や読書活動に関する情報の提供を行います。このほか、図書館の施設見学や職場体験、調べ学習などの受入を進めます。
5	学校図書館の図書整備の推進	学校図書館図書標準の達成を目指して、計画的な図書の整備を行います。また、市民からの寄贈図書も積極的に活用し、蔵書内容の充実を図ります。
6	寄託図書の充実	小・中学校全体の共用図書である寄託図書について、今後も子どもが読書や調べもの学習で十分活用できるよう、蔵書内容の充実に取り組んでいきます。
7	図書資源ネットワークの活用(再掲)	インターネット予約システムを活用し、子どもや教員が図書館の蔵書を各学校で貸出・返却することができる「ブックさあくる」を活用して、図書館の本を提供します。また、市民からの寄贈本を学校等で再利用する「さっぽろ本の再活用パートナーシップ事業」の利用促進を図っていきます。
8	学校司書の配置 《新規》(再掲)	学校図書館の機能を強化し、生徒の読書への興味や関心を向上させ、読書活動や学習活動を促進するため、全ての市立中学校に学校司書(学校図書館司書)を配置します。また、教員と学校司書が連携して学校図書館を活用した学習を行い、その取組内容を共有していきます。
9	図書館活用授業研究の実践	幼稚園・学校における読書活動において、学校図書館や幼稚園の図書コーナーなどを利用した授業や活動に関する実践研究を行い、研究成果等を他の幼稚園や学校に還元します。
10	学校図書館アドバイザーの派遣	学校図書館アドバイザーを派遣し、子どもによる学校図書館の利用が一層進むよう助言や支援を行います。
11	学校図書館ボランティアの派遣	学校図書館の利用が一層促進されるように、司書の資格や子どもにかかわる活動の経験を有する学校図書館ボランティアを派遣し、貸出業務や環境整備、子どもの主体的、意欲的な読書活動や学習活動を支援します。
12	特別な教育的支援を必要とする子どもへの読書活動の支援	文字を読んで理解につなげるということだけではなく、触れる・聴く・見るなど、子どもが知覚できる様々な感覚に働きかけることができるよう、布の絵本や録音図書、映像資料等、多様な資料の充実を図るなど、一人ひとりの状況に応じた読書活動を推進します。

No.	取組名	取組内容
13	司書教諭をはじめとした教職員に対する研修の実施	読書指導や資料・情報を活用する学び方・利用の仕方についての指導を適切に子どもに行うことができるよう研修を実施します。
14	児童生徒の読書に関する実態の把握	3年ごとに実施している「札幌市の児童生徒の実態に関する基礎調査」の調査項目に、読書に関する項目を設け、子どもの読書に関する実態の把握に努めます。

4 関係機関・団体の連携・協力の推進

子どもと本との関わりは、家庭や保健センター、子育て支援施設での読み聞かせから始まり、幼稚園、保育所へと広がり、さらに学校へと進むころからは、子ども自身で児童会館や図書館、書店などとも関わりを持つようになります。子どもの読書活動を支え、その推進の継続性を保つためには、これら施設や団体などが相互に連携・協力し合うことが大切です。

読書活動を通して子どもが豊かな心や人間性を育むとともに、意欲的に自ら学び、自ら考え、自ら行動する力を養い、健やかに成長できるよう社会全体で相互に連携を図り、協力しながら読書活動の推進に取り組んでいきます。

【取組項目】

No.	取組名	取組内容
1	図書館とボランティア団体との連携 レベルアップ	読み聞かせや子ども向けの普及事業などの活動をしているボランティア団体と協力事業を実施したり、新たに（仮称）絵本図書館においてボランティアの養成や能力向上のための研修を実施したりすることを通じて、相互交流を促進し、より連携を深めていきます。
2	図書館と幼稚園・保育所との連携 《新規》	新たに実施する（仮称）絵本図書館における幼稚園・保育所の団体利用や連携事業などを通じて、図書館と幼稚園・保育所との連携を図っていきます。
3	図書館と学校との連携 レベルアップ	学校の読書活動や学習活動を充実させるため、施設見学や調べ学習、職場体験などの図書館を活用した学習を実施するとともに、新たに図書館職員（司書）による学校図書館訪問や司書実務に関する相談、学校司書への研修などの支援を通じて、より一層の連携を図っていきます。

No.	取組名	取組内容
4	図書館と他の図書館との連携 レベルアップ	北海道立図書館をはじめとする他の公立図書館と子どもの読書活動の推進に関連する情報の交換に努めるとともに、児童書に関する情報提供や相談対応など、児童サービスの向上に向け連携を深めます。また、新たに（仮称）絵本図書館において、児童書専門の図書館などとの連携を図ります。
5	図書館と大学・研究機関との連携	幅広い分野の子どもの読書活動を進めるため、大学や研究機関と協力して事業を実施するなどし、連携を推進していきます。
6	図書館及び学校と文字・活字文化の担い手との連携 レベルアップ	文字・活字文化の担い手である出版社や書店、新聞社などと連携してさまざまな事業を展開し、子どもの読書活動の推進に努めていきます。特に学校においては、地元新聞社と連携し、授業に新聞を取り入れ、メディアや情報を活用する力の育成を図ります。
7	学校と研究機関等との連携	民間教育研究団体の人材を講師とした司書教諭をはじめとする教職員の研修を実施します。
8	学校と地域書店との連携	地域書店と学校とが連携し、POP ⁴⁷ の作成やおすすめ本のコーナー展示などの取組を通し、生徒の興味、関心を高め主体的な読書活動を促します。
9	障がいのある子どもたちへの充実した対応の研究	すべての子どもたちが本の楽しさに触れ、読書に親しむために、障がいのある子どもたちへの対応について調査研究を進めます。



トピックス

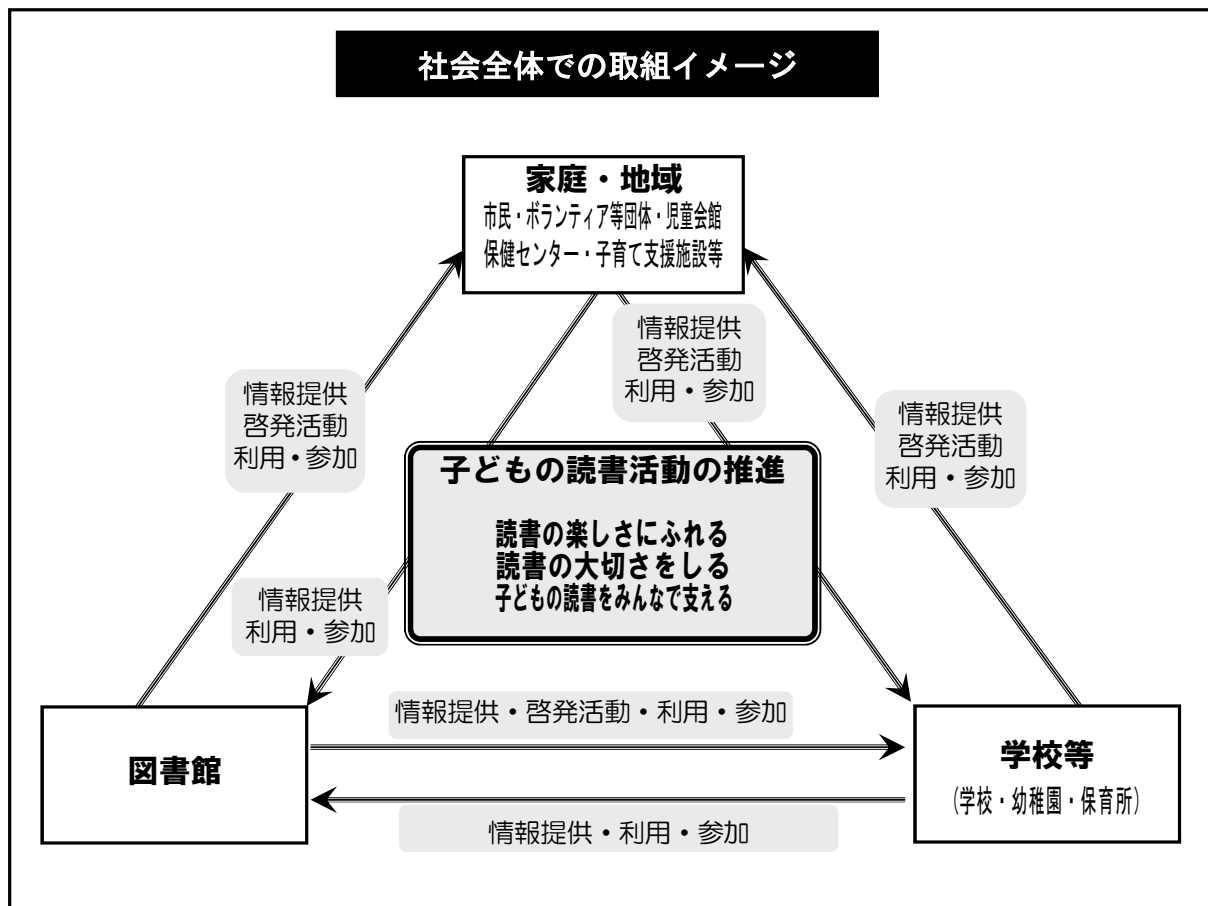
平成28年11月7日に（仮称）絵本図書館がオープンします！

白石区役所の移転に伴い整備される白石区複合庁舎（白石区南郷通1丁目南、地下鉄白石駅直結）の6階に、絵本を中心に集めた図書館がオープンします。絵本の閲覧・貸出はもちろん、絵本の読み聞かせやおはなし会などの楽しい行事がいっぱいです。絵本との素敵な出会いをお届けします。



白石区複合庁舎の完成予想図（イメージ）

⁴⁷ 【POP】ポップ広告（point of purchase advertising）の略称。販売促進のために掲示される広告のこと。本のPOPは本の内容や興味深い点などを紙に文字やイラストを使って手描きし、本の良さをアピールするもの。



第5章 計画の効果的な推進

1 計画の推進

本計画の推進にあたっては、社会全体で読書の意義や重要性について理解し、読書に関する興味や関心を高め、読書活動を推進していくことが大切です。このため、家庭・地域、図書館、学校等が互いに情報を共有し、緊密に連携しながら施策の効果的な推進を図っていきます。

2 計画の評価及び検証

計画を着実に推進していくためには、PDCAサイクルの考え方にに基づき、計画に掲げた施策の効果を評価・検証していく必要があります。

このため、評価・検証にあたっては、関係機関や団体による情報交換を通じて、計画の進捗状況を定期的に把握するとともに、設定した目標指標を用いて客観的に評価した上で、施策の成果や課題の検証を行い、施策の推進や改善を図っていきます。